

指標別評価・分析シート（案）

領域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価方法及び評価区分は、同一計画における評価の継続性を担保するため、中間評価時と同様、原則として増減率（相対的変化）5%を基準に評価するとともに、適宜必要な分析を行い、その結果も踏まえて総合的に勘案し判断する 												最終評価（R4）				
分野	<ul style="list-style-type: none"> a（改善）：増減率が指標の目指す方向に対して+5%超 b（不変）：増減率が指標の目指す方向に対して±5%以内 c（悪化）：増減率が指標の目指す方向に対して-5%超 d（評価困難）：増減率の比較ができない等、指標評価が困難 																
指標名	<ul style="list-style-type: none"> ■ 増減率（%） = （現状値 - ベースライン値） / ベースライン値 × 100 ■ 指標の目指す方向を定めていない参考指標については、中間評価時と同様に評価を行わず、経年グラフによる数値の変化等を基に分析と課題抽出を行う ■ また、中間評価と同様、領域・分野ごとの総合評価は、別途それぞれ総括する 												中間評価（H30）				
出典																	
指標数値の推移	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
図表	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点線枠：ベースライン値（プラン策定時の数値） ■ 二重線枠：中間評価時（平成30年度時点）の現状値 ■ 実線枠：最終評価時（令和4年度時点）の現状値 												<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると考えられる令和2年（度）以降のセルの色を区別 				
<p>指標数値を経時的に示すグラフ等を表示</p> <p>→ これまでの数値の増減の傾向や特徴を“見える化”する</p>																	
分析	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベースライン値と直近値の比較を通じた数値の動きや増減率についてコメント ■ 中間評価時からの変化についても言及 ■ 必要に応じて、性・年代別分析やコロナの影響についての考察等も実施 																
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上記分析（ベースライン値と直近値の比較分析）を踏まえ、評価a～dを記載 ■ 必要に応じて、目標値や目標の目安に対して意味のある増減幅であるか等も加味して判断 ■ 指標の目指す方向を定めていない参考指標については、中間評価と同様に評価を行わない 																
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上記分析・評価やこれまでの関連施策の取組状況等を踏まえ、今後の課題について記載 ■ 必要に応じて、コロナの影響についても触れる ■ 当該記載内容が、次期プランの取組の方向性につながっていくイメージ 																